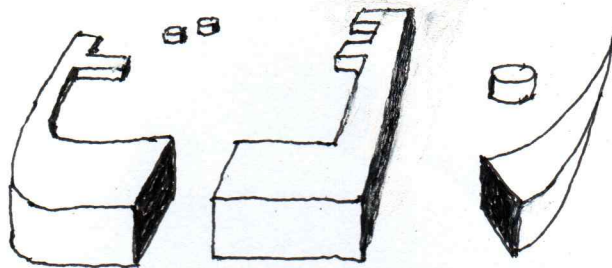


210号



通信

2023年4月1日発行

住所 S.F.O.
P.O. box 10 Kitengela 00242 KENYA
E-MAIL: sfoarakawa@yahoo.co.jp

日本は寒さが厳しかった
今年の冬が過ぎて、うれしい
桜前線が通過する春で
すね。こちらケニアの私たちの
プロジェクトがあるキテンゲラ
市は待ちに待った雨が少量
ですが降りました。もうそろ
そろ雨季の時期なので、これ
から雨の日がづくことを願っ
ています。

この1月23日に、昨年末から
はじめたクラウドファンディングが
終了し、みなさまのご協力によ
り目標額25万円を少し越える
93万2千円になりました。みなさ
まには感謝いたします。それ
でサイディアフラハは財政的に一
息つけそうでした。しかし同時
期にケニアの学校がはじまり
ましたが、私たちの学校児童
の集まりが悪く、児童が激減
して授業料収入が大巾に減じ
る事態が発生。また中学は
設立させスタートしたものの、ケ
ニア政府は中学スタート後に
困難な注文をつけてくるなど、
プロジェクト活動に混乱をきた
しています。



▼ひどい乾そう▲
私が覚えているかぎり、キ
テンゲラ市に前雨たるぶり雨
が降ったのは、1年近く前の
4月だったような気憶する。
その後私は病気になるて手術
のため日本へ帰ったが、私が
日本で受け取る工房スタッフの
カマリスさんからのたよりは、
雨が降っても少量とのことだっ
た。

ケニアのコロナは
ほとんどなくなった
ようですが、埃っぽく
乾燥して埃を飛ばし
た。



昨年後半、私がケニアのプロ
ジェクトへ戻ったときも、敷地は
乾そうしていた。ハラハラ雨が
降りだしても、5分で終るとい
うことが数度くり返されただ
け。すでにケニア北部でキキン
がはじまり、この雨の減少は全
国的のようだ。そのために穀物
・野菜の価格が上昇して、物
価高とうに拍車をかけている。
それが今年にはいるとここで
は小雨もなくなり、晴天の日が
つく。当然乾そうの度合いが

増し、しゅちゅう風がふき、
いつも埃っぽい。プロジェクトの
敷地でも、人がよく通るところ
は表土が砂と土の粉とになり、
砂漠の上を歩くようで足に力
がはいらない。草は最初から
存在してはなかったのでは？と
思われるほど消えうせている。
庭の高木はまだしも低木は
私や子どもたちで手洗い後の
水をまいても枯れが止ま
らない。少しくらい雨が降って
も、この枯れは止まらないう
う。まともな雨量がほしい。
▼幼稚園・小学校児童減少▲
2023年の新学期開始は例年
より少し遅い1月23日から。ケニア
は昨年からの物価が高とうして
いるので私は「サイディアフラハの
ように低額だが授業料を
徴集している私立小学校は
授業料無料の公立小学校
へ転出する児童を多数出す
だろう」と予想し心が曇った。
しかし、より高額授業料の
私立小学校から児童が転
入してくることもあると思
い直してみた。
そこいよいよ学校が始
まってみると、児童の集まり

が予想以上に悪い。私たちの学校は建物や設備を支援にたよることがあるが、先生の給料などは授業料から出している。これでは学校事業収支のマイナスは確実なので、私は「すぐにでも児童を増やす対策をとろう」と考えた。

しかし運営委員のデニス氏やダマリスさんは「1カ月様子をみて、そのあいだに他校などの情報を集めて対策をねったほうがよい」との見かた。私はそれで彼らに押し切られるような形で、物価高の影響や他校の状況を調べてみるにとどめた。

外の児童がクラダ達学校は1月ファンデーションの減少時



② 昨年3学期と今年1学期の児童数をクラス別に表を作って比較してみると、小学校高学年も低学年もい

それを証明するように「公立小学校は1クラス10名前後の児童へと大巾に増加し、クラスに児童があふれている」との情報もえられた。しかしよくこの表を見てもみると、公立小学校は幼稚園児には通えない距離。それでも減っている。その事情を先生たちにはたずねてみると、「私たちの学校より授業料が少し高いだけの学校が近所に2つもできまして」と言われた。そちらへ児童が流れたのかもしれない。ただこちらは利益なしで学校運営している。営利目的の他の私立学校なら、低額授業料をそう長くつづけるわけでもないだろう。児童集めのために1、2学期を低額にして、3学期あたりから授業料を値上げする計画にそういない。それにしてもこちらのほうがまだ安いわけだから、それほど強い低学年児童の転出理由となりにえない。そう考えると私たちの学校側に問題があることになる。児童や親がふたん接するのは先生たちなので、先生たちが親子とのあいだでトラブルをおこし、転出していったというところか？ 私はいまのところ昨年後半にケニアへ戻ってきてからの学校事

情に思いをめぐらせていた。たがったので、事態がよく飲みこめていなかかった。しかしもっと過去にさかのぼって、コロナ禍の峠を越えて学校再開したときから拡大してみたら、疑問点がスルスルと解けてきた。

2021年	220名
2022年	180名
2023年	135名
2020年	150名

2年前、全国的に学校が再開されることになったとき、私たちの学校では他校に先がけ、みなさまからの寄付により、3名がけ機イスを1名1台に改修したり、立派な手洗い台を設置したりした。それにより近所の子どもたちがどつと押し寄せ、150名ほどの児童の学校だったのが、220名以上にふくれあがった。しかし1年後にはいっぺんの先生がタイムンになり、私が修正に乗り出したが児童が180名に減少。その後私は日本へ発症のために一時帰国。それで先生たちのタイムンの虫が再発したようだ。

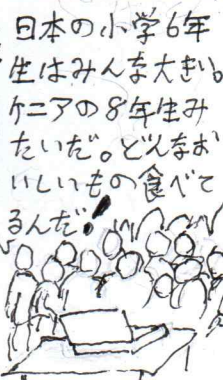
ナリストという仕事がかしく、もうたやすくプロジェクトへ来れなかつた。工房スタッフでもあるダマリスさんは施設管理をうまくやっていたがまだ力不足で、つわ者ぞういの先生たちを制御するまでにはいたらなかつた。私にしては9月末にケニアへ戻りはしたが、体力・気力が元に戻るには時間がかかり、おまけにクラウドファンディングなど難しい事業をいくつも抱えている。教室を見回ると余裕があまりなく、事務室でコンビエーターにがしりつきはなし。ダマリスさんに1名の先生のタイムンを昔げられ重い腰を上げたときには、もう3学期が終了しようとしていた。よく街中をリョクするのく、少しづつ、を背負い歩いて



因は先生のタイムンとはかり言いきれない。こちらこそこのケニアの高とう物価の時期に先生へ配慮し給料を上げていれば、タイムンは多少なりとも防げられたかもしれ

いまのケニア大統領は昨年の大統領選挙で選ばれて就任し、教育大臣も替った。それで教育省の新体制で、新しい教育制度、特に中学設立方針がうまく機能していないのではなにか？ 同じ県内でもその地域によって設立基準が多少違っている。だから今度の発言は地域レベルの職員の勝手に言い出したことかもしれない。あまり信用できない。私たちは国の明確な基準が出されるまで様子を見をしながら、中学校をつづけることにした。

千葉の小学校とのオンライン



先生の読み聞かせしりもち

私は前号の紙面ビヨンボ通信で「昨年3学期に先生たちから年少児童への読み聞かせをしてもらった。成績が大巾にアップした」と書いた。そこで今年学校がはじまってすぐの先生たちとのミーティングでその報告をして「読み聞かせを促進させよう

4

とした。それでこのミーティングのとき、昨年読み聞かせをした2名の先生たちへ他の先生たちの前で「読み聞かせの有効性について語ってもらおう」とうながす。しかし2名ともそれについては口をつむぎ、語ろうとはしなかった。後日、私は先生たちが「読み聞かせをつづけているかどうか調べてみたが、している形跡があまりない。そこでそれらの先生たちへ再び「読み聞かせを奨励してみたが、あまりしていないようだった。それで私は先生たちが「読み聞かせをなせしたがらないのかを考えてみた。

いま私は自分の双子の娘たちを日本語に触れさせるため、日本語での読み聞かせを自宅ですべてしている。たった2名への読み聞かせではあるが、けっこう労力がある。先生たちにとってみても、ふだん慣れている教員の方と違い疲労が多いたろうから、したくないのが本音ではなにか？ もし私がその労力に代えて給料を上げていたら、また話が違っていたらうが。学校児童が増加し財政が改善したならば、それらの先生



千葉の小学校とのオンライン

この企画を案発した渡辺好も現職で、今は今アフリカに現職で、いよいよと方々

クラウドファンディングを振り返って

サイディアフラハでは今年不足するだろうと見込まれた財源をなんとかしようとして、12月15日から1月23日までクラウドファンディングをおこないました。そしてその目標額85万円を越えるご寄付が集まったのはみなさまの気高いご協力があったからです。私たちはビヨンボ通信だけでなく、ソーシャルメディアを大いに使って、クラウドファンディングを日本の方へ呼びかけました。それで一般の方からだけでなく、昔サイディアフラハを訪れたことのある

方や日本での「ケニア料理会」などのイベントに参加した方からのご寄付をいただきました。そしてこの期間中にたくさんの方から暖かいご声援をいただきました。こちらもパワーや勇気がみなぎりしました。もっともこの催しは終わりを告げなくご寄付をいただいた方々へのお返しが残っています。それで今後「支える会」運営委員やボランティアの方たちと誠意を込めて進めます。千葉の小学校とのオンラインは3月14日にサイディアフラハ小学校は千葉県にある公立小学校とオンライン交流をしました。千葉の小学校は6年生児童の卒業記念ということで、ケニアの小学校との交流、同時に南アフリカのオンライン野生動物サファリを楽しみました。それで日本とケニア、南アフリカは3元中継のオンラインで結ばれました。日本児童の参加者は6年生2クラス約70名で、こちらは小高学年児童と中学生を合わせて50名が参加。ケニア時間の朝7時30分から2時間あまり。交流の内容としては、ケニア・日本の児童たちがそれぞれの食物、スポーツ、教科のことなどを質問しあい、歌の交換もしました。